

# 支援学級を含む少人数の教育政策 (小規模校問題)について

日時 : 平成29年1月21日(土)  
13時30分～

会場 : 中宮北小学校

枚方市教育委員会

# 枚方市教育振興基本計画

## 枚方市のめざすべき教育



### 教育目標

学びあい、つながりあい、一人ひとりの未来をひらく



### 10の基本方策

- 基本方策1 確かな学びと自立を育む教育の充実
- 基本方策2 豊かな心と健やかな体を育む教育の充実
- 基本方策3 教職員の資質と指導力の向上
- 基本方策4 「ともに学び、ともに育つ」教育の充実
- 基本方策5 幼児教育の充実
- 基本方策6 地域とともにある学校づくりの推進
- 基本方策7 学びのセーフティネットの構築
- 基本方策8 学びを支える教育環境の充実
- 基本方策9 基礎的な知識・技術の学習機会の提供と図書館の充実
- 基本方策10 文化・芸術・歴史・スポーツに親しめる環境づくりの推進

## 基本方策1

# 「確かな学びと自立を育む教育の充実」

枚方市独自の少人数学級編制を実施し、よりきめ細かな指導を実践。

- ・小4まで35人の少人数学級編制（国・府は小2まで）
- ・支援学級児童数を含めた少人数学級編制（国・府は未実施）
- ・算数・国語等の教科においては、  
高学年を中心に「少人数指導」も実施。

# 「少人数学級編制」・「少人数指導」とは

## 少人数学級編制

国の設置基準である1クラス40人より少ない人数を上限として定められた学級編制のこと。

(例)35人学級

## 少人数指導

1学級を少人数のグループに分けて授業を行う指導形態・方法のこと。

- (例)
- ・1つの学級を習熟度別に2つのグループに分ける。
  - ・2つの学級を3つのグループに分ける等。

# 支援学級児童を含めた市独自の「少人数学級編制」 (35人学級)の仕組みについて

(例) 1年生の児童数が36人で、そのうち、支援学級在籍の児童が1人含まれている場合

1学年の人数	国の場合	枚方市の場合
(例) <b>36人</b> うち、支援学級の児童を <b>1人</b> 含む	<b>1組 35人</b>  支援学級 <b>1人</b>  <b>35人として学級編制</b>	<b>1組 18人</b> <b>2組 18人</b>  さらに支援学級 <b>1人</b>  <b>36人として</b>

## 基本方策4

# 「ともに学び、ともに育つ」教育の充実

すべての子ども達が学校・地域社会の中で積極的に交流・活動し、一人ひとりの自立に向けた効果的な指導・支援の充実を。

- ・交流や共同学習を通じ、ともに学びお互いを理解する教育の一層の充実。
- ・「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」を踏まえ、児童の一人ひとりのニーズに応じた環境の整備。
- ・支援教育コーディネーター、保護者、関係機関と連携し、すべての子どもの支援を学校全体で取り組む。



玄関ホールに  
エレベーター(三中)



廊下に点字ブロック  
(三中)



洋式トイレとシャワー室  
カーテンの仕切り(渚西中)



教室内に洋式トイレ、シャワー  
洗面台、可動式の手すりが設置さ  
れている。(樟葉北小)

## 基本方策8

# 「学びを支える教育環境の充実」

適正な学校規模とする学校配置等の適正化に取り組む。



# 小規模校のメリットについて

- ・児童生徒どうしが、お互いをよく理解しあえ**人間関係が深まりやすい**
- ・教職員の目が児童生徒一人ひとりに行き渡り、**きめ細かな指導が  
できやすい**
- ・教職員間の意思疎通が図りやすく、**相互の連携が密になりやすい**
- ・**施設設備の使用にゆとりがあり、柔軟に対応しやすい** 等

※小規模校とは、学校全体の学級(クラス)数が、11学級以下の小学校のこと

# 小規模校のデメリットについて

小規模校の教職員配置による子どもへの影響例

- ・安全上の問題・・・事故・怪我等への対応可能な**教員人数の制限**
- ・児童のサポートの問題・・・付き添い指導、**教員不在時の対応**
- ・教育活動への影響・・・教員相互の連携、切磋琢磨の**機会の減少**
- ・業務量の増加・・・教員の**負担増**と子どもに接する**時間の減少**

枚方市学校規模等適正化審議会(第4次)参考資料集(H26.10)より

# 学校統合にかかるアンケート

**大阪府内の他市の結果より**

# 四條畷市のアンケートより (1/2)

## 小規模校で感じることは？

児童	仲が良い	84%
	きめ細かな指導	51%
	競い合いが少ない	32%
保護者	仲が良い	69%
	きめ細かな指導	68%
	PTA役割多い	31%
教職員	校務分掌が多く、指導にあてる時間が少ない	81%
	仲が良い	60%
	役割が固定する	51%
	きめ細かな指導	46%

(いずれも 回答の多い順)

一定期間小規模校(11学級以下)の状況が続いている  
 四條畷市内の2つの学校の5, 6年生と保護者、教員へのアンケート結果より(H26.11)

# 四条躰市のアンケートより (2/2)

## 望ましい学級数は？

児童	1学級	14%
	2～3学級	69%
保護者	1学級	4%
	2～3学級	77%

## なぜ2～3学級数が望ましいと感じたのか？

児童	クラス替えがあるので楽しみだから	74%
	たくさんの友達ができ、いろいろな考えを知ることが可能	45%
	クラスの対抗戦をしたり、交流の混合チームができる	45%
保護者	クラス替えがあり、人間関係の配慮が可能だから	50%
	たくさんの友達ができ、いろいろな考え方を知る	48%
	クラス間の対抗戦等、大集団での活動がある	32%
教職員	クラス替えで人間関係の配慮ができるから	76%
	友達が増え、多様な考え方にふれさせることが可能	41%
	学校行事や体育、音楽等で多人数での活動が可能	38%
(いずれも 回答の多い順)		

# 堺市のアンケートより

## 学校再編の効果

～これまで再編整備した学校からの声～

### 児童

- ・友達が増えて楽しい。
- ・クラス替えがあって気分が新たになり、雰囲気が変わって心地よい。
- ・いろいろな行事が活発になり、活動が楽しい。
- ・遊び相手や相談相手が変わったり、増えたりしたので良かった。

### 保護者

- ・子どもの友達の数が増えた。
- ・クラス替えができるようになり、刺激を受けることが多くなった。
- ・担任しか相談できなかったが、学年主任等違う先生に相談できるようになった。
- ・保護者どうしの関係が広がり、いろいろと意見が言いやすくなった。

### 教職員

- ・クラス替えができるようになり、児童の多様な友人関係がつけられた。
- ・児童の人間関係が広がり、クラス編制がしやすくなった。
- ・校務分掌が軽減され、能率よく仕事ができるようになった。
- ・学級経営や授業づくり、学習方法等、様々な意見交換ができるようになった。

# 学校規模の適正化および少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査

調査時点：平成26年5月1日

調査の対象：全市区町村教育委員会  
市区町村における過去3年間の統合事例

平成27年1月27日  
文部科学省

# 学校統合による成果1

## <児童生徒への直接的な効果>

		1当てはまる	2どちらかといえはまる	3どちらかといえはまらない	4当てはまらない
① 良い意味での競い合いが生まれた	<b>89%</b>	44%	45%	8%	4%
② 向上心が高まった		24%	64%	7%	5%
③ 学力が向上した		8%	54%	29%	9%
④ 学習意欲が向上した		13%	65%	15%	6%
⑤ 友人が増えた	<b>96%</b>	66%	30%	2%	3%
⑥ 男女比の偏りが少なくなった		28%	37%	19%	16%
⑦ 以前よりもたくましくなった		12%	59%	19%	11%
⑧ 教師に対する依存心が減った		8%	51%	28%	13%
⑨ 不登校が減少した		5%	24%	36%	35%
⑩ いじめが減少した		4%	27%	36%	33%
⑪ 多様な意見に触れる機会が増えた	<b>95%</b>	55%	40%	3%	3%
⑫ 異年齢交流が増えた		23%	35%	29%	12%
⑬ 集団遊びが成立するようになった		37%	43%	13%	7%
⑭ 業間や放課後での外遊びが増えた		14%	42%	30%	15%
⑮ 社会性・コミュニケーション能力が向上した	<b>85%</b>	20%	65%	10%	5%
⑯ 集団規模の確保により上級学校への進学に伴うギャップが緩和された		16%	48%	23%	14%
⑰ 集団規模が確保され、多様な進路が意識されるようになった		8%	45%	31%	16%
⑱ 学校が楽しいと答える子供が増えた		22%	58%	13%	7%
⑲ その他		23%	8%	12%	57%



# 学校統合に際して生じる課題1

## ＜児童生徒への直接的な効果＞

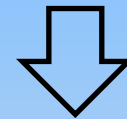
	課題である	課題であるが一定の改善がみられた	課題であるが解消される見込み	課題であったが解消された	課題と認識していない
① スクールバス通学による体力の低下	26%	12%	12%	13%	37%
② スクールバス通学による肥満の増加	15%	13%	12%	15%	45%
③ 通学路の安全確保	14%	26%	13%	25%	22%
④ 通学時間が長くなることによる児童生徒の疲労	22%	17%	9%	21%	31%
⑤ 通学時間が長くなることによる家庭学習時間の減少	12%	16%	14%	22%	37%
⑥ 学力が低下した	3%	17%	12%	25%	43%
⑦ 環境変化による学校生活への戸惑いが見られた	2%	17%	17%	43%	21%
⑧ 不登校が増加した	3%	10%	10%	32%	45%
⑨ いじめが増加した	1%	9%	8%	37%	45%
⑩ 異年齢の交流が減った	3%	13%	10%	32%	42%
⑪ 放課後の活動時間が減った	15%	15%	10%	24%	35%
⑫ 発表や活躍の機会が減った	5%	15%	13%	30%	38%
⑬ その他	0%	0%	0%	4%	95%

N=782(過去3年間の統合実施件数)

## 小規模校の解消



良好な学習環境の確保と  
適切な学校運営



子ども達の夢や元気につながるよう、  
新しい学校を築いていく観点で、  
教育環境を整備していきます。



**ご静聴ありがとうございました。**

平成29年1月21日

枚方市教育委員会 教育環境整備室